

職員健診における血液データの経年的推移

長崎大学保健管理センター

森内 拓治 石井 伸子

湯川 幸一

長崎県立成人病センター多良見病院

手塚 博

【はじめに】

大学職員健診における血液データの経年的変化に着目し、長崎大学保健管理センターにおける職員血液定期健康診断と、長崎県立成人病センター多良見病院における人間ドックの成績を比較検討した。

【対象・方法】

1988年から1999年の長崎大学教職員における血液定期健康診断受診者(40歳代, 50歳代)と, 1983年から1999年の長崎県立成人病センター多良見病院における人間ドック受診者(40歳代, 50歳代)を対象とし, 総コレステロール(TC)・トリグリセライド(TG)・空腹時血糖(FBS)・肥満度の値を, 40歳代と50歳代に分けて比較検討した。

年平均対象者数(名)

大学職員			
	40歳代	50歳代	計
男	179	132	311
女	111	84	195

人間ドック			
	40歳代	50歳代	計
男	967	901	1868
女	312	380	692

方法

長崎大学保健管理センター:

測定機器 SHIMADZU-7200

TC・TG・FBS測定試薬 カイノス社
成人病センター多良見病院:

測定機器 HITACHI-7250

TC・TG測定試薬 協和メディックス社
FBS測定試薬 栄研化学社

【結果】

TCについて, 男・女, 40・50歳代における経年的推移は, 80年代に上昇傾向であり, 90年代においては大きな変化は見られなかった。また, 女性の50歳代が40歳代よりも値が高くなることが分かり(図1・2), 女性の50歳代は男性の50歳代よりも高い。TGについての経年的推移も, 80年代において上昇傾向であり, 90年代においては大きな変動は無く, 女性の50歳代が40歳代よりも値が高いが, 女性の50歳代は男性の50歳代よりも低い。FBSについて, 保健管理センターにおいては1996年からの測定のため, 今回は過去4年間のデータを用いた。ドック受診者の, 男・女・40・50歳代において明らかな上昇を示した(図3・4)。肥満度については, 男・女・40・50歳代において, 経年的推移の大きな変化は見られないが, 40・50歳代ともに男性が女性に比べて値が高いことが分かる。また人間ドック受診者においては, 女性の40歳代よりも50歳代の方が肥満度は高い傾向だった。大学職員とドック受診者を比べた際, 大きなデータの違いは認められなかったが, TCにおいて

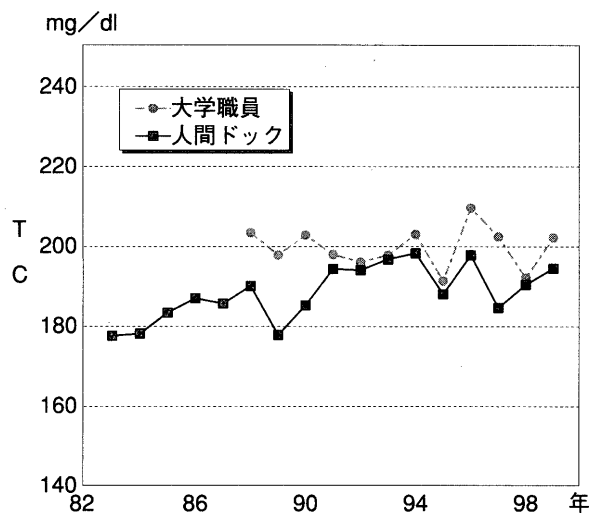


図1 TC：女性40歳代

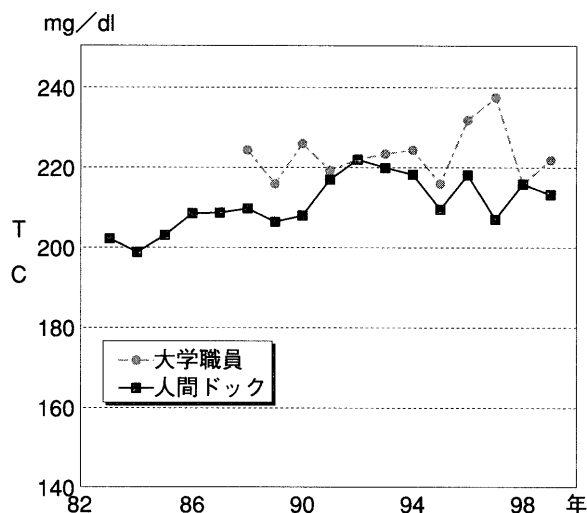


図2 TC：女性50歳代

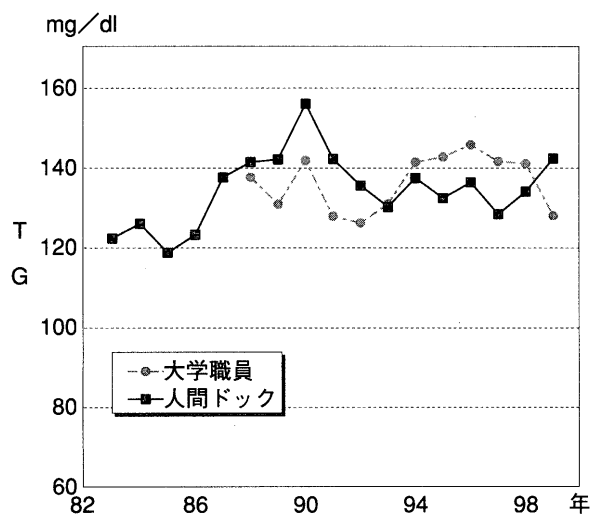


図3 TG：男性50歳代

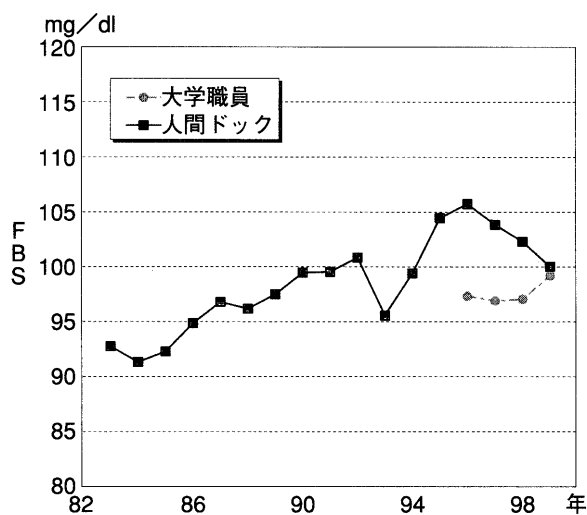


図4 FBS：男性50歳代

は男女とも大学職員が、ドック受診者より高い傾向であり、FBSは低い傾向であった。

【まとめ】

今回の経年推移において、データに著明な変化が認められたのはFBSであり、ドック受診者において明らかな上昇が認められた。TC・TGにおいては、80年代に上昇傾向であり90年代においては大きな変動は見られなかった。大学職員とドック受診者を比べた際、

大きなデータの違いは認められなかったが、TCにおいては男女とも大学職員が、ドック受診者より高い傾向であった。

参考文献

長崎県立成人病センター多良見病院：人間ドック15周年誌～より良い生活習慣を～、17～20、1999

(本論文の要旨は第38回長崎県総合公衆衛生研究会で発表した。)